

〈聖地巡礼〉

メディアを横断するフィクション

フィクション作品の舞台となった場所を訪れ、その世界を追体験する——現代のポピュラーカルチャーによってしばしば「聖地巡礼」や「コンテンツツーリズム」として語られるこの経験は、現代におけるフィクション受容のあり方を、さらにはフィクションと「現実」との関係を示唆するものである。2007年の刊行以来中国で大ブームとなっている小説『盗墓筆記』が引き起こした「聖地巡礼」を論じる Zhange Nii、「シャーロック・ホームズ」シリーズに文学の「コンテンツ化」の起源をみる石橋正孝、そして写真論の立場からメディアと現実世界の関係を問う橋本一径を迎えて開催される本シンポジウムでは、物語によって価値が生産され、あらゆるものがそのメディアとなりつつあるようにみえる現代において、フィクションの固有性とその機能を考察することを目的としている。

Zhange Nii（ヴァージニア工科大学）

場所の発明、物語の旅：現代資本主義下のフィクショナルリティ再考

石橋正孝（立教大学）

シャーロキアンたちの聖地巡礼

橋本一径（早稲田大学）

写真の中の場所は本当に存在するのか？：「再撮影」の歴史を通して

司会：久保昭博（関西学院大学）

2023年1月21日（土）13時30分～18時

早稲田大学戸山キャンパス 36号館 382（AV2）教室 & オンライン

オンライン参加申込フォーム（QRコード）※申込締切：1月18日

使用言語：日本語・英語（通訳あり）

問合せ：akihirokubo@kwansei.ac.jp（久保昭博）

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター「イメージ文化史」部門

科研費基盤（B）「近代におけるフィクションの社会的機能についての領域横断的研究」

